

條約各條
經過

第二節 條約各條經過

第一項 條文ノ構成

條文ノ構
成

海軍軍備制限條約構成ノ基礎トナリシモノハ第一節起草ノ經過中ニ述ヘタル米國國際法學者「ウキルソン」博士ノ提出セ
ル條約草案概目（附錄第一號）ナリ、之ト同時ニ英國全權法律顧問「マルキン」氏モ其案（附錄第二號）ヲ提示シタルカ
氏ハ之ヲ撤回セリ、カクテ起草分科會ニ於テ始メ審議シタル草案ハ「ウキルソン」氏ノ原案ニ依リテ組立テラレタルモノ
ニシテ廢棄、代換等ニ關スル細則ハ附屬書トシテ之ヲ條約本文ト分チ又條約ニ前文ヲ附セス章節ノ區別モナカリシカ（附
錄第三號、第四號、第五號參照）後米國委員ヨリ前文ヲ附シ且ツ章節ノ區別ヲ施スコトヲ提議アリ（附錄第八號參照）一
月十日ノ第一回全權會議ニ於テ之カ採用ヲ見結局左ノ如キ構成トナレリ（附錄第七號參照）

前文

第一章 海軍軍備ノ制限ニ關スル一般規定

第二章 本條約實施ニ關スル規則及用語ノ定議

第一節 締約國ノ保有シ得ヘキ主力艦

第二節 軍艦廢棄ニ關スル規則

第三節 代換

第四節 定義

註、本章條約起草ノ經過ハ第六章ニ於テ述ヘタル海軍専門委員會間ノ研究ト密接ナル關係アリ互ニ照應スルコトヲ要ス

第二項 前文及條約第一章

前文

一、前文

（條文）

亞米利加合衆國、英帝國、佛蘭西國、伊太利國及日本國ハ一般ノ平和ノ維持ニ貢獻シ且軍備競争ノ負擔ヲ輕減セム
コトヲ望ミ

右目的ヲ達成スル爲各自ノ海軍軍備ヲ制限スルノ條約ヲ締結スルコトニ決シ之カ爲左ノ如ク其ノ全權委員ヲ任命セ
リ

（以下全權氏名省略）

右各委員ハ互ニ其ノ全權委任狀ヲ示シ之カ良好妥當ナルヲ認メタル後左ノ如ク協定セリ

（説明）

○原案ニ Desiring to strengthen the friendly relations which unite them ナル一句アリシモ（附錄第八號參照）一月十日
ノ全權會議ニ於テ各國既ニ友好ノ關係ニアルヲ以テ殊更之ヲ置ク必要ナシトシテ之ヲ削除セリ

○後段英文ノ who having communicated to each other their respective full powers ニ對スル佛文ニ respective ニ相當スル
文字ナキヲ以テ之ヲ挿入センコトヲ一月二十三、二十四日ノ法律家分科會ニ於テ米國側ヨリ提議シタルモ佛國側ハ其
意義ニ於テ何等英文ト異ナル所ナキハ從來此文體カ幾多ノ條約ニ認メラレタルニヨリテモ明ニシテ今更句調ヲ惡クシ
テ迄モ變更スルノ必要ナシト主張シ大ニ佛語ノ爲ニ氣ヲ吐キ遂ニ修正ヲ加ヘサルコトニ決ス

○本條約ヲ Treaty ト呼フヘキカ Convention ト稱スヘキカニ付法律家ノ會合ニ於テ議論アリ米國委員「ニルセン」ハ Con-
vention ヲ提議セシモ英國委員「マルキン」ハ最近 Convention ナル語ハ左程重要ナラサル條約ニ用フルカ例ナレハ
Treaty トスヘシト主張シ之カ採用ヲ見タル次第ナリ（附錄第三號、第四號各第一條第二十條第二十一條第二十二條等
比較參照）

第一條

二、第一條

（條文）

締約國ハ本條約ノ規定ニ從ヒ各自ノ海軍軍備ヲ制限スヘキコトヲ約定ス

(説明)

○最初米國側ヨリ提出セル假條約草案(附錄第三號)ニ於テハ米英佛伊日主力艦噸數ノ比率ヲ *Five to three* トシテ本條規定中ニ掲ケタルモ法律家起草分科會ニ於テ佛伊兩國委員ヨリ反對起リ兩國ノ關スル限リ總噸數ノ問題ハ協議ニ上リタルモ比率ノ問題ニ付討議シタルコトナシ此點日英米ト大ニ趣ヲ異ニス又斯ノ如ク各國ニ對シ階級ヲ附スルカ如キハ其ノ國家的權威ヲ損スルコト大ナリト論シタル爲メ英ヨリ對案トシテ妥協案ヲ提出シ(附錄第四號)結局右英對案ヲ採用セラレタリ

○Limitノ意義

本條ノ用語トシテハ Limit (制限) ヨリモ寧ロ reduce (縮少) ヲ以テ可トセサトノ議論モアリタルカ米國法律家「ウエッルソン」ノ如キハ Limit 〆 reduce ノ意義ヲ含ミ得ルノミナラス代艦建造ノ場合ニハ新艦ノ建造ヲ終ル毎ニ舊艦ヲ廢棄スル次第ナルヲ以テ reduce ヨリモ Limit ヲ以テ適當ナリトシ Limit 採用セラル

第二條

三、第二條

(條文)

締約國ハ第二章第一節ニ掲クル主力艦ヲ各自保有スルコトヲ得本條約實施ノ上ハ合衆國、英帝國及日本國ノ既成又ハ建造中ノ他ノ一切ノ主力艦ハ第二章第二節ノ規定ニ從ヒ之ヲ處分スヘシ但シ本條約中ノ左ノ諸規定ヲ留保ス
合衆國ハ第二章第一節ニ掲クル主力艦ノ外現ニ建造中ノ「ウエスト、ヅァーシニア」級二隻ヲ完成シ之ヲ保有スルコトヲ得右二隻完成ノ上ハ「ノース、ダコタ」及「デラウエーア」ハ第二章第二節ノ規定ニ從ヒ之ヲ處分スヘシ

英帝國ハ第二章第三節ノ代換表ニ從ヒ基準排水量各三萬五千噸(三萬五千五百六十「メートル」式噸)ヲ超エサル

新主力艦二隻ヲ建造スルコトヲ得右二隻完成ノ上ハ「サンダラー」「キング、ジョージ」五世、「エージ、アックス」及「センチュリーオン」ハ第二章第二節ノ規定ニ從ヒ之ヲ處分スヘシ

(説明)

○本條第三項「英帝國ハ第二章第三節ノ代換表ニ從ヒ」ノ一句ハ原案ニ於テハ英帝國ハ其適當ト思考スル時機ニ於テ *such time as they may think fit* トアリタルヲ法律家起草分科會ニ於テ我方委員ノ主張ニ依リ之ヲ現在ノ如ク改メタルモノナリ蓋シ原案ノ如クシハ英國ハ十年休暇中何時ニテモ任意ニ造艦シ得ル權利ヲ保有シ不公平ナル結果ヲ來スヘケレハナリ

○第三項中 *Thunderer* ハ始メ *Erin* トナリ居リシモ *Erin* ヲ最近兵學校練習艦トシテ艦裝ヲ終レルヲ理由トシテ英國側ヨリ之ヲ *Thunderer* ニ代ヘンコトヲ要求シ斯ク改メラレタルモノナリ

○第二項「ウエスト、ヅァーシニア」ノ前「現ニ建造中」ナル一句ハ一月二十五日ノ十五人委員會ニ於テ之ヲ追加セルモノナリ

○原案(附錄第四號)ニ於テハ *standard tonnage* ナル文字ヲ用ヒタルモ起草分科會ニ於テ之ヲ *standard displacement* ト改メ且佛伊ノ提議ニ從ヒ噸數表示ニハ米突噸ヲ併セテ記入スルコトトス

第三條

四、第三條

(條文)

第二條ノ規定ヲ留保シ締約國ハ各自ノ主力艦建造計畫ヲ廢止スヘク又締約國ハ第二章第三節ニ掲クル所ニ從ヒ建造シ又ハ取得スルコトヲ得ヘキ代換噸數以外ニ新主力艦ヲ建造シ又ハ取得スルコトヲ得ス
第二章第三節ニ從ヒ代換セラレタル軍艦ハ同章第二節ノ規定ニ從ヒ之ヲ處分スヘシ

(説明)

○本條ハ法律家起草分科會ニ於テ英國側ノ提出セル案(附錄第四號參照)ヲ基本トシテ成立セルモノナリ

○本條中 Building program 云々ニ關シテ法律家起草分科會ニ於テ佛伊ハ之ヲ有セストテ兩國ノ除外ヲ主張シタルモ兩國ヲモ含マシムルコトカ輿論ニ對スル影響良好ナルヘシトノ理由ニテ保存セララル

○取得ナル語ヲ特ニ附加シタルハ軍艦ヲ私立造船所ニ注文スル場合ヲ包含セシムルニ「建造」ノ一字ノミニテハ不充分ナルヲ以テナリ

○第二項ニ「處分」(Disposal)ナル文字ヲ用ヒタルハ保存スヘキ主力艦ノ外ハ全部廢棄スヘシトノ「ヒューズ」原案變更セラレ或種ノモノハ改造ヲ加ヘテ保存シ得ルコトトナリタルヲ以テナリ

第四條

五、第四條

(條文)

各締約國ノ主力艦合計代換噸數ハ基準排水量ニ於テ合衆國五十二萬五千噸(五十三萬三千四百「メートル」式噸)、英帝國五十二萬五千噸(五十三萬三千四百「メートル」式噸)、佛蘭西國十七萬五千噸(十七萬七千八百「メートル」式噸)、伊太利國十七萬五千噸(十七萬七千八百「メートル」式噸)、日本國三十一萬五千噸(三十二萬四千「メートル」式噸)ヲ超ユルコトヲ得ス

(説明)

○英國案(附錄第四號)ハ本條ニ於テ五國主力艦ノ比率ヲ掲ケタルモ佛伊ノ反對ニ依リ之ヲ撤回セリ

六、第五條

(條文)

基準排水量三萬五千噸(三萬五千五百六十「メートル」式噸)ヲ超ユル主力艦ハ何レノ締約國モ之ヲ取得シ又ハ之ヲ建造シ、建造セシメ若ハ其ノ法域内ニ於テ之ヲ建造ヲ許スコトヲ得ス

(説明)

○本條中ニ用ヒタル「法域」原案英語 Jurisdiction ノ意義ニ關シ之ヲ英米法律家委員ニ訊シタルニ米國委員「ウキルソン」博士ハ例ヘン

米國ノ布哇比律賓、英國ノ「ドミニオン」其他ノ英領殖民地及領土、保護國、A.B.C. 式委任統治地域ハ Jurisdiction ノ範圍内ナルヘシト答ヘ

英國委員「マルキン」ハ例ヘン

英國殖民地「ドミニオン」印度、佛國領「チュニス」「アルジェリー」「モロッコ」馬來半島ニアル英國保護國ノ如キ保護國、B.C. 式委任統治地域ハ Jurisdiction ノ範圍内ト云フヘク A 式委任統治地域ハ疑問ナリ要スルニ締約國カ三萬五千噸以上ノ軍艦建造ヲ禁止スルカ如キ條約實施ニ必要ナル權利ヲ有スルヤ否ヤニ依リテ決スヘシト答ヘタリ

○佛語ニ於テハ Jurisdiction 裁判管轄權ヲ意味シ「カムレル」公使ノ言「英語ニ於ケルカ如キ廣汎ナル意義ナキニ依リ佛譯ニハ Le ressort de son autorité ナル語ヲ用ヒタリ

斯クスルトキハ租借地及 B.C. 式委任統治地域ヲモ包含シ得ヘシトノコトナリ

○尙右法域ノ意義ニ關シ一月十日ノ全權會議ニ於テ左ノ如キ討議アリタリ
「シヤンツ」Jurisdiction ナン term へ national territory ノミナラス其ノ國ノ Colonies 及 Protectorates ニモ及フヘキモノナリヤト質問シ

「ヒューズ」締約國ノ何レモ其 Colony ニ對シ Control カナシトノ口實ノ下ニ本條約規定ノ適用ヲ回避スルモノアルヘシト思ハレス

「バルフォア」英帝國ノ或部分ニ對シテハ英政府カ Control ヲ有セサルモノアリト雖是等 Dominions 及 India ハ本條約ニ調印スヘク英政府ハ斯クノ如キ事項ニ關シテハ Crown Colonies, Protectorates 及其ノ他ニ對シ Control ヲ有ス
「ヒューズ」本條約ハ英帝國トシテ調印セラルルニ依リ此場合ニ適合スル如シ

「サロー」佛政府ハ「control」ナクシテ佛國殖民地ヲ建設スルコトハ不可能ナリ

「ヒューズ」若シ何カ危険カアルナラハ「Jurisdiction」ハ殖民地ニモ適用サルコトノ定義ヲ附加スルコト必要アルヘケ
レトモ實際上其ノ危険ナシ

即チ單ナル字義ノ上ヨリスレハ殖民地ヲ含ムヤ否ヤ疑ナキニアラサルモ實際上殖民地ニ於テ本條約ノ施行ヲ回避スル
カ如キコトナシトノ諒解ノ下ニ強ヒテ「Jurisdiction」ノ定義ヲ下ササリシナリ

○本條第二項英文ハ必スシモ明確ナラサルモ佛文ハ英文ノ意味スル所カ茲ニアリト了解シテ一月二十三日二十四日五國
法律家會合ノ際起草セルモノナリ即チ本條ニ依ル制限ハ次ノ行爲ヲ含ムモノナリ

1 取得

2 建造

(イ)政府自ラ行フ場合

(ロ)自國ノ私立造船所又ハ外國ノ官立又ハ私立造船所ニ注文スル場合

(ハ)自國ノ私立造船所カ外國ノ注文ニ依リ行フ場合

第六條

七、第六條

(條文)

何レノ締約國ノ主力艦モ口徑十六吋(四百六「ミリメートル」)ヲ超ユル砲ヲ裝備スルコトヲ得ス

(説明)

本條ニ付テハ格別議論ナシ

第七條

八、第七條

(條文)

各締約國ノ航空母艦合計噸數ハ基準排水量ニ於テ合衆國十三萬五千噸(十三萬七千六百六十「メートル」式噸)、英帝
國十三萬五千噸(十三萬七千六百六十「メートル」式噸)、佛蘭西國六萬噸(六萬九百六十「メートル」式噸)、伊太利
國六萬噸(六萬九百六十「メートル」式噸)、日本國八萬一千噸(八萬二千二百九十六「メートル」式噸)、ヲ超ユル
コトヲ得ス

(説明)

○米國側原案ニハ「airplane」ナル文字ヲ用ヒタルモ此用語ハ陸上飛行機ヲ意味スルモノナルヲ以テ一月七日法律家海軍
専門家聯合起草分科會ニ於テ日本委員ノ主張ニ依リ之ヲ一切ノ航空機ヲ意味スル「aircraft」ト改メタリ

第八條

九、第八條

(條文)

航空母艦ノ代換ハ第二章第三節ノ規定ニ從フノ外之ヲ行フコトヲ得ス但シ千九百二十一年十一月十二日ニ現存シ又
ハ建造中ノ一切ノ航空母艦ハ之ヲ試験的ノモノト看做スヘク且其ノ艦齡ノ如何ニ拘ラス第七條ニ規定スル合計噸數
ノ範圍内ニ於テ之ヲ代換スルコトヲ得

(説明)

本條ニ關シテハ特ニ説明スヘキモノナシ

第九條

十、第九條

(條文)

基準排水量二萬七千噸(二萬七千四百三十二「メートル」式噸)ヲ超ユル航空母艦ハ何レノ締約國モ之ヲ取得シ又ハ
之ヲ建造シ、建造セシメ若ハ其ノ法域内ニ於テ之カ建造ヲ許スコトヲ得ス
尤モ各締約國ハ其ノ航空母艦ノ割當合計噸數ヲ超エサル限り基準排水量各三萬三千噸(三萬三千五百二十八「メー

トル「式噸」ヲ超エサル航空母艦二隻以内ヲ建造スルコトヲ得ヘク又經費節約ノ爲各締約國ハ第二條ノ規定ニ依リ廢棄スヘキ既成又ハ建造中ノ主力艦中ノ二隻ヲ右目的ニ利用スルコトヲ得基準排水量二萬七千噸（二萬七千四百三十二「メートル」式噸）ヲ超ユル航空母艦ノ武裝ハ第十條ノ規定ニ準據スヘシ但シ備砲中ニ口徑六吋（百五十二「ミリメートル」）ヲ超ユルモノアルトキハ航空機防禦砲及口徑五吋（百二十七「ミリメートル」）以下ノ砲ヲ除クノ外備砲ノ數ハ合計八門ヲ超ユルコトヲ得ス

（説明）

○法律家ノ手ヲ離レタル原案（附錄第五號）ニ於テハ本條ニハ第一項航空母艦ノ排水量制限ノミヲ掲ケ第二項ノ例外ハ附屬書 B II (c) トシテ規定セラレタリシカ一月十一日ノ全權會議ニ於テ此條項ヲ審議シタル際「バルフォア」ハ米國カ「サラトガ」、「レキシントン」ヲ航空母艦ニ改造セントスルニ痛ク反對シ、「ヒューズ」ハ場合ニ依リテハ之ヲ放棄セントスル意向サヘ示シタルカ（第五項削除セラレタル條文第一、參照）一月十二日ノ全權會議ニ於テ「ヒューズ」ハ依然之カ維持ニ努メ「建造中ノ主力艦ヲ代ヘテ三萬三千噸ノ航空母艦トスルコトハ新ニ二萬七千噸ノ軍艦ヲ建造スルコトヨリモ經濟ナルコト勿論ナリ然レトモ此ノ經濟ノ點ハ日英モ同シク、英國モ新「フッド」ヲ改造シ得ヘシ又此大形母艦ニ付テハ武裝ノ制限ヲ受タリ」ト述ヘ「バルフォア」ハ「ヒューズ」ノ説明ヲ大體合理的ト認ムルモ經濟ノ點ハ英米日同一ニ論スルヲ得ス、日ハ知ラス英ハ新「フッド」ノ改造不能ナリ、又英國ハ五ヶ年間航空母艦新造ノ意ナシト述ヘ「バルフォア」ハ次ノ如キ修正案ヲ提出ス

ANNEX "B" PARAGRAPH III (a).

MR. BALFOUR'S DRAFT

9. 1. 22.

"Any of the Contracting Powers may, without increasing its total tonnage of aircraft carriers build not more than

two such aircraft carriers each of a tonnage of not more than 33,000 tons, and for this purpose may convert any of their unfinished ships which would otherwise be scrapped."

"The restrictions on armament contained in Article X will apply to such aircraft carriers with the further restriction that the number of guns with a calibre in excess of 6" (152 m.m.) to be carried shall not exceed eight."

此修正案ハ主義上承認セラレ「ヒューズ」ノ提案ニ依リ之ヲ第九條中ニ規定スルコトナリ翌十三日午後ノ首席全權會議ニ於テ更ニ討議ノ上（一）建造ノ外ニ取得ヲ加ヘ（二）未成軍艦ノミナラス既成軍艦ヲ改造シ得ルコトニ改メ附錄第七號ノ如キ成案ヲ得タルカ更ニ一月二十三日二十四日ノ法律家起草分科會及二十五日ノ十五人委員會ニ於テ修正ヲ加ヘテ最後ノ成文ヲ見タル次第ナリ

○本條第一項佛譯ハ第五條ノ譯ニ對應シテ爲サレタルモノニシテ本條解釋ハ第五條ト同様ノ趣旨ニ據ルヘキモノナリ
○本條第二項ヲ規定スルニ當リテハ（一）三萬三千噸ノ航空母艦ノ建造ヲ認ムルモ之ニ依リ航空母艦ノ總噸數制限ヲ超過スルコトヲ許スモノニ非サルコト及（二）右例外艦ノ武裝ニ關シ除外例ヲ設ケタルハ第十條ニ於テ一門タニ六吋ヲ超ユル砲ヲ搭載スルトキハ其總噸數ヲ十門トスル制限ニ對シ之ヲ八門トシタルノミニシテ其他ノ點ニ於テハ即チ五吋以下ノ砲及航空機防禦砲等ニ付テハ凡テ第十條ノ精神ニ基クモノナルコトヲ明ニセンカ爲屢々修正ヲ行ヒタリ

第十條

十一、第十條

（條文）

何レノ締約國ノ航空母艦モ口徑八吋（二百三「ミリメートル」）ヲ超ユル砲ヲ裝備スルコトヲ得ス備砲中ニ口徑六吋（百五十二「ミリメートル」）ヲ超ユルモノアルトキハ航空機防禦砲及口徑五吋（百二十七「ミリメートル」）以下ノ砲ヲ除クノ外備砲ノ數ハ合計十門ヲ超ユルコトヲ得ス但シ第九條ノ規定ノ適用ヲ妨クルコトナシ又備砲中ニ口徑六吋（百五十二「ミリメートル」）ヲ超ユルモノナキトキハ砲ノ數ハ制限セララルコトナシ右何レノ場合ニ於テモ航空機

防禦砲及口徑五吋（百二十七「ミリメートル」）ヲ超エサル砲ノ數ハ制限セララルコトナシ

（説明）

○本條ハ最初法律家起草分科會ニ於テ脱稿セル草案ニ於テハ六吋ヲ超ユル砲ノ數ヲ十門ニ制限シ六吋以下ノ砲數ハ無制限トシタルニ其後英國側ヨリ六吋ヲ超ユル砲ヲ搭載スル場合ニハ其裝備砲ノ總數ヲ十門ニ制限シ但シ航空機防禦砲ハ此制限ヨリ除外セントスル修正案ヲ提出シ（附録第六號）伊國側ハ一月十一日首席全權會議ニ於テ航空機防禦砲ニ四、七吋以下ノ砲ヲ加ヘテ例外トセンコトヲ提議シ十二月ノ首席全權會議ニ於テ更ニ英國側ハ伊國ノ修正案四、六吋ヲ四、七吋ニ訂正ノ上之ヲ採用セリ更ニ一月三十一日ノ十五人委員會ニ於テ四、七吋ノ制限ハ米國側ノ要求ニ依リ五吋ト改メラレ最後ノ決定ヲ見タリ尙ホ航空母艦武裝問題ニ關シテハ第六章第一節第二款第七項ヲ參照スヘシ

○本條解釋ニ際シテハ次ノ三點ニ注意スルヲ要ス

- （一）六吋ヲ超ユル砲一門タニアラハ搭載砲數ヲ十門ニ制限ス
- （二）六吋ヲ超ユル砲一門ヲモ有セサルトキハ登載砲ニ制限ナシ
- （三）（一）及（二）ノ何レノ場合ニ於テモ五吋以下ノ小口徑砲及航空機防禦砲ニ關シテハ制限ナシ

第十二條 第十一條

（條文）

主力艦又ハ航空母艦以外ノ軍艦ニシテ基準排水量一萬噸（一萬百六十「メートル」式噸）ヲ超ユルモノハ何レノ締約國モ之ヲ取得シ又ハ之ヲ建造シ、建造セシメ若ハ其ノ法域内ニ於テ之ヲ建造ヲ許スコトヲ得ス特ニ戰闘用艦船トシテ建造セラレタルモノニ非サル船舶又ハ戰闘用トシテ平時政府ノ管理ノ下ニ置カレタルモノニ非サル船舶ニシテ艦隊要務又ハ軍隊輸送ノ爲其ノ他戰闘用艦船トシテ爲ス以外ノ敵對行爲ノ遂行ヲ幫助スル爲使用セラルルモノハ本條ノ制限ヲ受ケサルモノトス

（説明）

○本條後段ノ規定ハ一月十三日ノ全權會議ニ於テ始メテ挿入セラレタルモノニシテ本條ハ専ラ戰闘ニ從事スル艦船ニ適用セラレ工作船運送船等ノ艦隊附屬艦船ニハ適用ナキコトヲ明ニセン事ヲ目的トスルモノナリ

一月十三日ノ全權會議ニ於テ決定シタル條文（附録第七號）ハ未タ疑義多ク更ニ二十三日二十四日ノ法律家起草分科會及二十五日ノ十五人委員會ニ於テ議論百出セル後現在ノ如ク修正セラレタリ

○一月二十三、四日ノ法律家起草分科會ニ於テ英委員「ヤルキン」ハ原案後段ノ Provided that vessels not specifically built as fighting ships or taken under government control for fighting purposes, which are employed on fleet duties or as troop transports or in any other way for the purpose of assisting in the prosecution of hostilities other than as fighting ships shall not be within the limitation of this article ノ taken へ not ニカカラルモノナリトノ解釋ヲ執リ英國全權ノ名ニ於テ之ヲ次ノ如ク修正方提議セリ

This restriction only applies to fighting ship specifically built or acquired as such. All other vessels, including those, armed or unarmed, which are to be employed on fleet duties, or troop transports, are exempt from this restriction.

○一月二十五日十五人委員會ニ於ケル本條ニ關スル討議ノ模様左ノ如シ附録第七號ノ當該條文ヲ原案トシテ討議セシモノナリ

「ヒューズ」曰ク本條ハ假裝巡洋艦ニ付テハ一萬噸ノ制限ヲ加フルモ武裝商船ニハ之ヲ加ヘサル趣旨ナリ第二ノ文章ハ第一ノ文章ノ如ク vessel of war ト云ハスシテ單ニ vessel トノ言フ converted vessels 非 constructed vessels 非 for fighting purposes ノモノニ非サレハ本條ノ制限外ナリ

「バルフォア」曰ク大型ノ客船ヲ改造シテ輕巡洋艦トナスコトハ之ヲ認メラルル次第ナランカ

「チャトフ＊ールド」少將曰ク other than as fighting ship ト言フ以上商船ヲ改造シテ vessels of war ノ一種タル rep-

air ship トナスコト即チ違法ニ非サルヘシ蓋シ如斯ハ fighting ship ニ非サレハナリ

「ヒューズ」曰ク本件ノ豫想スルハ政府ノ監督下ニ在ラスシテ troop transport ノ用ニ供セラルル船ノ如キモノナリ
「チャトフキールド」曰ク英國ハ帝國內ニ於ケル紛亂ノ鎮定等ノ爲大型商船ヲ假裝巡洋艦ニ改造シテ便宜使用セントス如
斯ハ其目的平和ニ在リ戰爭ニアラス國際間ノ秩序ヲ維持セントスル外他意ナキモノナリ

「ヒューズ」曰ク taken 以下ハ not taken under Government control for fighting purposes ト讀ムヘキモノナリ

「ロード、リー」曰ク商船ニ武裝ノ權利アルハ久シキニ互ル國際慣例ノ認ムル所ナリ且軍事委員會ト雖モ戰事ニ於テ商
船ヲ輕巡洋艦トシテ使用シ得ルコトハ之ヲ認メタリ

「ヒューズ」曰ク右ハ戰時ノ場合ナリ戰時ニ對シテハ第二十二條ノ規定アルニ非スヤ

「ロード、リー」カ口中ニテ第十三條及第十四條ノコトヲ物語ルヤ

「ヒューズ」曰ク是レ全ク余カ指摘セントシタル所ナリ

「ロード、リー」曰ク交戦ノ目的ノ爲政府ノ監督ノ下ニ置カントスルハ抑モ如何ナル趣旨ナリヤ

「ヒューズ」曰ク交戦以外ノ目的ヲ以テ艦船ヲ政府監督ノ下ニ置クコトハ可能ナルニ非スヤ

「シャンツェ」曰ク此ノ文章ニ付英國側ハ taken not ヲ附クセスシテ讀マルルカ如キモ右ハ米國側ノ讀方ノ如クニスヘキモ
ノト思考ス斯クセサレハ本條ノ規定ハ始ト其意義不明トナルヘシ

「ヒューズ」曰ク商船ヲ平時軍艦ニ改造シ得サルコトハ第十四條ノ規定ニ依リ明白ナリ第十一條ノ除外例ハ要スルニ
(一)本來交戦ノ目的ヲ以テ建造セラレサルモノ(二)後ニ至リ交戦ノ目的ノ爲ニ改造セラレサルモノニシテ艦隊ノ特務
及軍隊ノ輸送等ニ使用セラルルモノニ適用アル次第ナレハ taken 以下ノ一句ハ之ヲ削除スルモ大ナル妨ナシ

「ルーズヴェルト」曰ク何レノ途第十四條ニ依リ商船ノ軍艦改造ハ制限ヲ受クル次第ナリ

「バルフォア」曰ク nor taken in time of peace under Government control for fighting purposes トナセハ可ナルヘシ

「ヒューズ」曰ク誠ニ然リ。是第十四條ニ於テ商船ノ軍艦改造ヲ禁シタルト同趣旨ナリ

「バルフォア」曰ク vessel of war トハ何ン

「ヒューズ」曰ク國際法ノ定ムル所ニ依ルノ外途ナシ尤モ armed vessel of war ト解セハ大ナル誤ナカラシ

「チャトフキールド」曰ク fighting ship トハ何ン

「バルフォア」曰ク light cruiser トハ何ン

「ルーズヴェルト」曰ク mother ship ノ如キハ vessel of war ナルモ fighting ship ニハ非サルヘシ

本項ハ nor taken in time of peace under Government control for fighting purpose or converted as fighting vessels ト改メテ
モ可ナルヘシ

「ヒューズ」曰ク本條ノ除外例ハ要スルニ三種ヨリ成ル次ノ如シ

- (1) vessels not specifically built as fighting ships.
- (2) vessels not taken in time of peace under Government control for fighting purposes.
- (3) vessels which.....

右ノ趣旨ニテ原案ニ多少ノ修正ヲ加フレハ可ナラン

一同曰ク 諾

○本條ノ解釋ニ付テハ法律家ノ間ニモ疑義多ク一月二十七日ノ法律家起草分科會ニ於テモ英佛米ノ委員間ニ種々意見交
換セラレタルモ明確ナル解釋ヲ得ルニ至ラス

第十二條 十三、第十二條

(條文)

將來起工セラルヘキ何レノ締約國ノ軍艦モ主力艦ヲ除クノ外口徑八吋(二百三「ミリメートル」)ヲ超ユル砲ヲ裝備

スルコトヲ得ス

(説明)

本條ニ關シ特ニ記スヘキモノナシ

十四、第十三條

(條文)

第九條ニ規定スル場合ヲ除クノ外本條約中ニ廢棄スヘキモノトシテ指定セラレタル軍艦ハ再ヒ之ヲ軍艦ニ變更スルコトヲ得ス

(説明)

○本條ハ十七條ト共ニ戰時絕對ニ效力アル規定ナリ(第二十二條參照)

○本條ハモト附屬書B VIトシテ規定セラレタリシカ(附錄第五號參照)

首席全權ノ起草委員ニ於テ少シク修正ヲ加ヘタル上第十三條トナセリ

第十四條

十五、第十四條

(條文)

商船ハ軍艦ニ變更スルノ目的ヲ以テ平時之ニ武裝ヲ施スノ準備ヲ爲スコトヲ得ス但シ口徑六吋(百五十二「ミリメートル」)ヲ超エサル砲ヲ裝備スル爲必要ナル甲板ノ補強設備ハ此ノ限ニ在ラス

(説明)

○商船ノ武裝問題ニ關シテ我方ハ外ニ其ノ必要ヲ認メ加藤全權モ第十三回總委員會ニ於テ注意ヲ喚起セルコトアリ(第四章第二節第二款第四項參照)同委員會ニ於テ潛水艦使用規則ニ關シ討議セル際ニモ本件論議ニ上リ海軍分科會ニ於テハ我委員切リニ之ヲ主張シ英委員ハ商船ノ武裝ハ國際法ノ認ムル多年ノ慣習ニシテ商船ノ自衛權ニ基ク當然ノ權利

ナリ之ヲ制限セントスルモ頗ル困難ナリトテ之ニ反對シタルモ結局相當ノ權限ヲ之ニ加フルコトナレリ(第六章第一節第二款第八項參照)一方起草分科會ニ於テハ一月八日ノ會合ニ於テ始メテ本條草案ノ提出アリ、大ナル修正ナクシテ之ヲ採用ヲ見タリ

第十五條

十六、第十五條

(條文)

何レノ締約國ノ法域内ニ於テ非締約國ノ爲ニ建造スル軍艦モ締約國ノ建造シ又ハ建造セシムル同型ノ軍艦ニ付本條約ニ規定スル排水量及武裝ニ關スル制限ヲ超エルコトヲ得ス但シ非締約國ノ爲ニ建造スル航空母艦ノ排水量ハ如何ナル場合ニ於テモ基準排水量二萬七千噸(二萬七千四百三十二「メートル」式噸)ヲ超エルコトヲ得ス

(説明)

○米國草案(附錄第四號第十七條米國提案第二十九節參照)ニハ外國ノ註文ニ依ル軍艦建造ハ原則トシテ之ヲ禁止スル旨ノ規定アリシカ英國ハ五國間ニ之ヲ締約スルモ軍艦建造國ハ五國ノミニ在ルヲ以テ、此禁止ノ結果五國以外ノ國ニ對スル註文ヲ増加セシムヘク約定ノ目的ヲ達スルコト困難ナリ且ツ軍艦建造請負ヲ常ニ業トシツツアル英國ニトリテカカル制限ハ耐エ得サル處ナリトテ削除ヲ求メ遂ニ之ヲ削リ單ニ建造スヘキ軍艦ノ制限ニ關スル本條ヲ設ケタリ

○然ルニ本條ハ第五條等ニ於テモ規定セラレタル所ニシテ重複ノ嫌アレハ削除スヘシトノ說アリタルモ英法律家ハ第五條第九條第十一條ニ於テ規定スル所ハ單ニ噸數ニ關スルモノナルヲ以テ未タ不充分ナルヲ免カレス本條ハ大砲ノ口徑等ニ付テモ規定スルモノナレハ存置ノ實益アリト主張シ其通ニ決ス

○本條「制限」ノ上ニ「排水量及武裝ニ關スル」ヲ挿入シタルハ日本ノ主張ニ依リ制限ノ及フ範圍明カナラシムルノ主旨ニ出テタルモノナリ

○未段「但シ云々」ハ一月十三日ノ首席全權會議ニ於テ採用セル所ナリ

第十六條 十七、第十六條

(條文)

締約國ノ法域内ニ於テ非締約國ノ爲ニ軍艦ヲ建造スルトキハ該締約國ハ他ノ締約國ニ對シ契約締結ノ日及軍艦ノ龍骨据附ノ日ヲ速ニ通報シ且第二章第三節第一款(ロ)ノ(四)及(五)ニ規定スル軍艦ニ關スル細目ヲ通知スヘシ

(説明)

○本條ニ關シ米國側ハ私立造船所ニモ之ヲ適用スル爲ニハ法律ヲ要ストテ法律家起草分科會ニ於テ之ヲ留保シタル程ナリシモ本條約ノ適用上其ノ必要ナルハ云フ迄モナキヲ以テ採用セラレタリ

○本條ノ promptly inform ノ promptly ハ一月十一日ノ全權會議ニ於テ特ニ追加シタル所ナリ

第十七條 十八、第十七條

(條文)

締約國ハ戰爭ニ從事スル場合ニ於テハ其ノ法域内ニ於テ他國ノ爲ニ建造中ノ軍艦又ハ其ノ法域内ニ於テ他國ノ爲ニ建造シタルモノ引渡ヲ了セサル軍艦ヲ軍艦トシテ使用スルコトヲ得ス

(説明)

○本條ハ外國軍艦建造禁止ヲ解キタル結果現ハレタル條文ナリ(第十五條ノ項參照)

○本條ハ第十三條ト共ニ戰時ニ於テ絕對ニ效力アル規定ナリ

○本條最初ノ草案「附錄第四號第十四條C」ニハ本條ヲ唯非締約國ノ爲メニ建造スル場合ニノミ適用アル如ク規定セルカ一月八日ノ起草分科會ニ於テ締約國タルト非締約國タルト問ハス凡テ他國ノ爲メ建造スル場合アル様修正セリ

○第一回ノ首席全權起草委員會ニ於テ建造終了後未タ引渡ヲ了セサル間ニ開戰シタル場合ニモ外國軍艦ヲ徵發シ得サル旨ノ規定ヲ追加セリ

○第二回全權會議ニ於テ第二十三條(本條約ノ有効期間)ヲ審議セル際ニ「バルフォア」ハ本問題ニ關シ「一國興亡ノ時ニ當リ現ニ製造シツツアル他國ノ軍艦ヲ其ノ儘放棄スルコト實際可能ナリヤ條約ニ拘束セラレテ外國軍艦ノ爲メニ船臺ヲ塞カレ自國ノ軍艦製造カ妨ケラルルハ不都合ナリ」ト論スルヤ「ヒューズ」ハ本條ノ規定ハ誘惑ヲ防クノ意味ニシテ本條ヲ守ルト否トハ寧ろ國ノ名譽ノ問題ナリ實際問題トシテハ相當出來上レルモノハ進水シテ繫留スレハ可工事未進捗ノモノハ船臺ヨリ外シテ傍ニ置ケハ可ナリ」ト應ヘ「サロー」カ「敵國ノ軍艦ハ如何」ト問ヘルニハ「捕獲スルノミ」ト「ヒューズ」答ヘタリ

第十八條 十九、第十八條

(條文)

各締約國ハ贈與、賣却又ハ如何ナル讓渡ノ形式ニ依ルヲ問ハス外國海軍ニ於テ軍艦ト爲ヌヲ得ルカ如キ方法ニ依リ其ノ軍艦ヲ處分セサルヘキコトヲ約ス

(説明)

○本條ノ原案タル米原案(附錄第三號)第十六條ニ於テハ、唯主力艦ノミヲ擧ケテ之ヲ他國ノ海軍ニ移轉スルコトヲ禁止又他國政府又ハ國民ヨリ之ヲ獲得スルコトヲ禁スル旨ノ規定ヲ掲ケタルカ(米國提案第二十八節參照)第二回法律家分科會ニ於テ主力艦ニ航空母艦ヲ加ヘ(附錄第四號參照)、一月八日ノ第五回法律家分科會ニ於テハ主力艦及ヒ航空母艦ヲ改メテ軍艦トシ又後半他國政府國民ヨリ獲得云々ノ規定(附錄第五號參照)ヲ削除シ首席全權會議ニ於テ其儘承認セラレタリ凡テノ軍艦ニ及シタルハ世界ノ武器ノ増加ヲ防カントスル精神ニ出テ後半ヲ削リタルハ外國軍艦ノ建造ニ關スル自由ヲ認メタル以上之ヲ存置スル必要ナキニ依ル

○一月二十五日ノ十五人會ニ於テ從來ノ案ニ追加シテ贈與、賣却其他如何ナル移轉ノ方法ニ依ルモ爾々ノ方法ニ依リ軍艦ヲ處分シ得サル旨ヲ規定シ處分ノ方法ヲ例示シテ本條ノ趣旨ヲ一層明確ニシタリ

○尙本件討議ノ際「バルファア」ハ本國「アドミラリテイ」ヨリノ報告ニ依ルニ某國（締約國ニ非ス）ヨリ軍艦購入ノ申込アリタル趣ナル處右ハ條約實施以前ニ於テハ少クモ條約ノ文字ニハ違反セサルコト思考スルモ英國ニ之カ許サルレハ他ノ四國ニモ之ヲ認メサル可カラス然レトモ斯ノ如キハ條約ノ精神ニ違反スルヲ以テ此點ニツキ協定ヲ得タシト述ヘ「リー」卿更ニ其主旨ヲ布衍シテ各國間ニ軍艦賣却ノ競争ノ起ル危險ヲ説キ「バルファア」ハ更ニ茲ニ代表セラレタル五國以外ニ多數ノ軍艦ヲ有スル國ハナキヲ以テ此五國間ニ艦船ヲ賣却セストノ紳士協約ヲ結ビ得レハ問題解決スヘシト述ヘタルニ「ヒューズ」之ニ賛成シ

○本條ノ規定ハ條約實施以前ト雖紳士協約トシテ各國ニ於テ之ヲ遵守スヘキ旨ヲ議事録ニ留メ度シト提議シ一同之ヲ承認ス「ヒューズ」ハ二月四日ノ第六回總會議ニ於テ右ノ主旨ヲ説明シ之ヲ議事録ニ止メタリ左ニ全文ヲ掲ク

The Chairman, (Secretary Hughes speaking in English)

I have also to report that the following was recorded in the committee on Limitation of Armament and, by its direction, is reported to be included in the record of the full Conference. This relates to a provision in the Five-Power Treaty with regard to the disposition of capital ships.

The resolution is as follows:

“It should therefore be recorded in the minutes of the sub-committee and before the full Conference that the Powers signatory of the Treaty of Naval Limitation regard themselves in honor bound not to sell any ships between the present date and the ratification of the Treaty, when such a sale would be a breach of Article XVIII.”

第十九條 二十、第十九條

(條文)

合衆國、英帝國及日本國ハ左ニ掲クル各自ノ領土及屬地ニ於テ要塞及海軍根據地ニ關シ本條約署名ノ時ニ於ケル現

狀ヲ維持スヘキコトヲ約定ス

(一) 合衆國カ太平洋ニ於テ現ニ領有シ又ハ將來取得スルコトアルヘキ島嶼タル屬地但シ(イ)合衆國「アラスカ」及「巴奈馬運河地帶」ノ海岸ニ近接スル島嶼(「アリューシャン」諸島ヲ包含セス)並(ロ)布哇諸島ヲ除ク

(二) 香港及英帝國カ東經百十度以東ノ太平洋ニ於テ現ニ領有シ又ハ將來取得スルコトアルヘキ島嶼タル屬地但シ(イ)加奈陀海岸ニ近接スル島嶼(「マタ利聯邦」及其ノ領土並(ハ)新西蘭ヲ除ク

(三) 太平洋ニ於ケル日本國ノ下記ノ島嶼タル領土及屬地即チ千島諸島、小笠原、奄美大島、琉球諸島、臺灣及澎湖諸島並日本國カ將來取得スルコトアルヘキ太平洋ニ於ケル島嶼タル領土及屬地

前記ノ現狀維持トハ右ニ掲クル領土及屬地ニ於テ新ナル要塞又ハ海軍根據地ヲ建設セサルヘキコト、海軍力ノ修理及維持ノ爲現存スル海軍諸設備ヲ増大スルノ處置ヲ執ラサルヘキコト並右ニ掲クル領土及屬地ノ沿岸防禦ヲ増大セサルヘキコトヲ謂フ但シ右制限ハ海軍及陸軍ノ設備ニ於テ平時慣行スルカ如キ磨損セル武器及裝備ノ修理及取替ヲ妨クルコトナシ

(説明)

○本條ニ規定セル太平洋島嶼ニ於ケル防備問題ニ關シテハ別ニ章ヲ設ケ詳細ニ記述セルヲ以テ茲ニハ之ヲ省ク

第二十條 二十一、第二十條

(條文)

第二章第四節ニ規定スル排水量噸數算定ノ規則ハ各締約國ノ軍艦ニ之ヲ適用ス

(説明)

○本條約ニ適用スヘキ排水量噸數算定方法ニ關シテハ別ニ噸數分科會ヲ設ケテ研究セシメ之ヲ規定シタル次第ナリ

第三項 條約第二章

本項ニ於テハ第二章中特ニ説明ヲ要スルモノノミヲ舉ケタリ尙ホ第五項ニ述ヘタル削除サレタル條文中其事項本項ニ屬ス

ルモノアリ本項ヲ讀ムニ當ツテハ必ス之ヲ參照スヘシ且ツ條約第二章ノ事項ハ最初ニ海軍分科會ニ於テ審議セラレタルモノナルヲ以テ報告第六章ト照應スルヲ要ス

保有主力艦表

一、締約國ノ保有シ得ヘキ主力艦表（第一節）

右表ニ於テ各國カ現ニ保有スル主力艦ノ噸數ハ各國國有ノ算定法ニ依リテ之ヲ表示シ、今後新ニ建造スヘキモノニ付キテハ本條約所定ノ標準算定法ヲ用ヒ兩者混同セサルヲ以テ、右ニ關シ加藤全權ハ首席全權ノ起草委員會ニ於テ相當ノ修正ヲ加ヘンコトヲ申出テ「ヒューズ」之ニ同意シ寧ロ噸數ヲ削リ艦名ノミヲ止ムルヲ可トスヘシト説キタルモ「バルファア」ハ斯ノ如クスルトキハ事故亡失ノ場合代艦ヲ建造シ得ヘキ噸數ヲ知リ難キ不都合アリトテ反對シ其儘トナリタリ

二、砲術練習艦ニ關スル佛伊ノ除外例（第二節第二ノ（二））

砲術練習艦ニ關スル佛伊ノ除外例

（條文）

佛蘭西國及伊太利國ハ千九百三十一年又ハ其ノ以後ニ於テ本條約ニ依リテ廢棄スヘキ主力艦中ヨリ専ラ練習用ノ爲即チ砲術學校又ハ水雷學校用トシテ航海可能ノモノニ隻ヲ各自保有スルコトヲ得

佛蘭西國ノ保有スル右軍艦ニ隻ハ「ジャン、パール」級ノモノタルヘク又伊太利國ノ保有スルモノノ内一隻ハ「ダンテ、アリギエーリ」ニシテ他ノ一隻ハ「ジュリオ、チエザーレ」級ノモノタルヘシ佛蘭西國及伊太利國ハ前記目的ノ爲右軍艦ヲ保有スルニ當リ其ノ司令塔ヲ撤去破壊シ且該軍艦ヲ軍艦トシテ使用セサルヘキコトヲ各自約定ス

（說明）

原案（附錄第五號）ハ附屬書 B.H.トシテ佛伊ノ希望ニ依リ代換ノ場合ニ廢棄セラルヘキ主力艦ニ隻ヲ砲術練習艦トシテ保留センコトヲ將來ノ會議ニ於テ決定シ得ヘシトスル主旨ノ規定ヲ置キタルカ右ニ對シ「ヒューズ」ハ主義上異議ナキモ右ニ隻カ戰爭ノ目的ニ使用セラレサル旨ノ保障ヲ得ルコト極メテ望マシキニ付佛伊兩國ヨリ具體案ヲ提出セラレ度シト述ヘ斯テ佛伊ノ提案ニ依リ現規定ヲ見ルニ至レリ

廢棄ノ期間

三、今回ノ條約ノ結果直ニ廢棄セラルヘキ主力艦ニ對スル廢棄ノ期間。（第二節ノ四（イ））

（條文）

第二條第一項ニ依リ廢棄スヘキ軍艦ニ付テハ本節第三號ニ從ヒ爾後戰關任務ニ堪ヘサルモノト爲スノ作業ヲ本條約實施ノ時ヨリ六ヶ月内ニ完了シ且其ノ廢棄ヲ右實施ノ時ヨリ十八ヶ月内ニ全部完了スヘシ

（說明）

原案（附錄第五號）ニハ本項ニ該當スル軍艦ハ之ヲ條約實施後十五ヶ月以内ニ戰關ニ耐ヘサラシムル程度ニ破壊シ條約實施後四年内ニ廢棄ヲ完成スル案ナリシニ二月十二日午前ノ首席全權會議ニ於テ「ヒューズ」ハ第一ノ期間十五ヶ月ヲ六ヶ月第二ノ期間四年ヲ十六ヶ月ニ修正センコトヲ提議シ英國ハ頗ル當惑ノ態ナリシモ遂ニ之ヲ承認セリ

代換ノ際ニ於ケル廢棄ノ期間

（條文）

第二條第二項及第三項ニ依リ又ハ第三條ニ依リ廢棄スヘキ軍艦ニ付テハ本節第三號ニ從ヒ爾後戰關任務ニ耐ヘサルモノト爲スノ作業ハ其ノ代艦完成ノ日以前ニ之ヲ開始シ右完成ノ日ヨリ六ヶ月内ニ之ヲ完了スヘシ該軍艦ハ其ノ代艦完成ノ日ヨリ十八ヶ月内ニ本節第二號ニ從ヒ確定ノニ之ヲ廢棄スヘシ但シ新艦ノ完成遲延スルトキハ本節第三號ニ從ヒ舊艦ヲ爾後戰關任務ニ堪ヘサルモノト爲スノ作業ハ新艦ノ龍骨ヲ付後四年内ニ之ヲ開始シ該作業開始ノ日ヨリ六ヶ月内ニ之ヲ完了スヘク且舊艦ハ爾後戰關任務ニ堪ヘサルモノト爲スノ作業開始ノ日ヨリ十八ヶ月内ニ本節第二號ニ從ヒ確定ノニ之ヲ廢棄スヘシ

（說明）

本項ハ最初ヨリ六ヶ月十五ヶ月ノ案ナリシカ唯後段代艦ノ建造カ遲延シタル場合ノ規定ハ十三日全權ノ審查ヲ經タル案（附錄第七號）ニ於テハ代艦建造ヲ規定セル第三節第一款（D）トシテ存置セシヲ一月二十三日同二十四日ノ法律

家起草分科會ニ於テ本項ハ廢棄ニ關スル規定ナルヲ以テ寧ロ第二節ニ移スヲ以テ至當ナリトシ訂正セラレ更ニ一月二十五日十五人委員會ノ承認ヲ經テ現在ノ如ク修正セラレタリ

前項後段ノ趣旨ハ要スルニ代艦建造着手後四年以内ニハ必ス舊艦ヲ廢棄セサルヘカラサルコトヲ規定シタルモノニシテ遲延云々ハ實ハ問題トナリ得ヘキニ非ス何トナレハ二年計畫ニテ建造ニ着手シタルトキハ一年ノ遲延アリテモ建造後三年目ニハ新艦ノ完成ト共ニ舊艦ヲ廢棄スル義務ヲ生スヘク反之五年計畫ニテ建造ニ着手シタルトキハ遲延アラハ勿論縱令無之トモ四年目ニハ是非共廢棄ヲ斷行セサル可カラサレハナリ

海軍休暇
ニ關スル
規定

五、海軍休暇ニ關スル規定（第一節第一款（イ））

（條文）

主力艦及航空母艦ニシテ其ノ完成ノ日ヨリ二十年ヲ經過シタルモノハ第八條及本節第二款ノ表ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外新艦建造ニ依リ第四條第七條ニ定ムル範圍内ニ於テ之ヲ代換スルコトヲ得右新艦ノ龍骨ハ第八條及本節第二款ノ表ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外代換セラルヘキ舊艦ノ完成ノ日ヨリ十七年ヲ經過スルニ非サレハ之ヲ据附クルヲ得ス但シ主力艦ハ第二條第三項ニ掲クル軍艦及本節第二款ニ掲クル代換噸數ヲ除クノ外千九百二十一年十一月十二日ヨリ十年間ハ之ヲ起工スルコトヲ得ス

（說明）

（イ）項ノ末尾ハ始メ until ten years from the date of the coming into force of this Treaty トアリシヲ日本側ヨリ法律家起草分科會ニ於テ until November 12, 1931 ト修正センコトヲ提議セシカ首席全權ノ會議ニ於テ「ヒューズ」ハ一九二一年ノ十一月二十二日ナル日カ特ニ紀念スヘキ日ナルノ故ヲ以テ現在ノ如ク修正センコトヲ提議シ採用セラル（一月二十五日十五人委員會）

海軍休暇
ノ例外

六、海軍休暇ノ例外（第三節第一款（イ）及ヒ（ハ））

（說明）

一月二十七日ノ法律家分科會ニ於テ佛委員「デュブイ」ハ（ハ）項ノ規定カ（イ）項ノ規定スル十箇年ノ海軍休暇ノ例外トシテ（イ）項中ニ明記セラレサリシ結果本項ノ適用上多少曖昧ノ點ヲ生シタリト指摘シタルニ英委員「マルキン」ハ同一ノ節ニ於テ（イ）（ハ）ト竝ヒ規定セラルル以上（ハ）項ハ當然（イ）項ノ例外ヲナスモノナリト述ヘ一同ヲ首肯セシム

代換表

七、代換表（第三節第二款）

（說明）

代換表ノ性質ニ關シ右ハ果シテ各國ニ必ス此表ニ掲ケラレタル通り代艦建造ヲ行フ義務ヲ負ハスモノナリヤ或ハ條約ノ他ノ部分ニ規定セラレタル原則ニ違反セサル限り必スシモ本表ニ依ラス例ヘハ千九百三十一年千九百三十二年ニ建造スヘキ艦船ヲ千九百三十三年迄延期シテ同時ニ三年分ヲ建造シ得ルヤテフ點ニ關シ一月二十三日二十四日ノ法律家起草分科會ニ於テ我方ヨリ質問ヲ起シタル處英國「マルキン」ハ代換年限ノ遲延ヲ認ムルトキハ艦齡ニ關スル考慮ヲ無視シ噸數ノ制限コソ超エサレ或時期ニ於テ頗ル有力ナル新艦ヲ多數有スルコトナルヘク又本節全體ニ通スル備考ノ規定スル處ニ依リ此場合ノ如ク作ルヘキ新艦ヲ作ラサル場合ニ於テモ舊艦ノ廢棄ハ必ス行フヘキナリト述ヘ「ヒューズ」提督（米國海軍ノ老將佛文ニ長スルノ故ヲ以テ列席ス）ハ假ニ英國カ密ニ米國ニ向ツテ戰端ヲ開カントシ或時期ニ至リ一度ニ十隻或ハ十五隻ノ新式巨艦ヲ建造センカ此新式巨艦ト廢棄スヘキ舊艦トヲ併有スル結果英米間ノ勢力ハ著シク均衡ヲ破ルニ至ルヘシ從ツテ一年又ハ二年ノ繰延ハ兎モ角長期ニ互ル延期ハ縱令財政上ノ理由ヲ以テスルモ關係各國ノ勢力均衡上遽ニ同意シ難シト述ヘタリ日本側ハ本條約カ各國ニ負ハシムル義務ハ軍備ヲ擴張スヘカラストセル義務ニシテ一定ノ年度内ニ一定ノ建艦ヲ爲スヘシトノ義務ニハ非ス依テ本表ノ適用ニ當リ多少ノ彈力性ヲ認ムヘシト主張シ一應通過セリ

本問題ハ事「デリケート」ナル點モアリ其後全權ノ間ニハ問題トセラレス尤モ日英米三國海軍委員會ニ於テハ本表ハ假ニ茲ニ作成シ置キ八年後ノ會議ニ於テ實際ノ事ハ研究セントスル了解ナリ代艦ヲ外國ニ註文シテ建造スル場合ニハ新艦カ本國ニ到着シタル日ヲ以テ廢棄ノ開始期トナスヘキモノナリトノ日本側ノ說一月二十三日二十四日ノ法律家起草打合會ニテ承認セラレタルモ夫カ爲何等規定ヲ設クルニハ至ラス

代換ノ表中米國ニ「オレゴン」「イリノイ」英國ニ「コロサス」「コリンウッド」日本ニ「敷島」「朝日」ヲ留保スルコトナリタルハ英國カ上記ノ二艦ヲ若年水兵練習艦トシテ保存シ度キ希望ヲ有スルヨリ米國ニ歴史的記念物タル「オレゴン」「イリノイ」ヲ留保セシメ日本亦右ニ對應スル爲「敷島」「朝日」ヲ殘スコトナリタル次第ナリ（一月二十五日十五人委員會ニ於テ決定）日本ノ「富士」「石見」「周防」ハ條文ニ於テ何等問題トセラレサルコトナリ廢棄作業ヲナサハ之ヲ解體又ハ沈沒セサルモ可ナリトノ諒解ヲ得タリ

八、航空母艦ノ定義（第四節）

（條文）

航空母艦トハ特ニ且專ラ航空機ヲ搭載スル目的ヲ以テ設計シタル基準排水量一萬噸（一萬百六十「メートル」式噸）ヲ超ユル軍艦ヲ謂フ航空母艦ハ艦上ニ於テ航空機ノ發着シ得ヘキ構造ヲ有スヘク且第九條又ハ第十條ノ何レカニ依リ許寄セラレタルモノ以上ノ有力ナル砲ヲ裝備スルノ設計構造ヲ有セサルコトヲ要ス

（說明）

航空母艦ノ定義ニ關シテハ海軍分科會ニ於テ盛ナル討議アリ（第六章第一節第二款第六項第七項參照）決定ニ到ラスシテ起草分科會ニ附議セラレ航空母艦ナル名ノ下ニ主力艦ニモ比スヘキ優勢ナル巨艦ヲ建造スルノ弊ヲ防クノ要アルヲ以テ英國ヨリ更ニ提案スル處アリ之ヲ基礎トシテ一月二十五日ノ十五人委員會ニテ現在ノ如ク決定セリ

第四項

條約第三章

第二十一條

（條文）

會議ノ再

本條約ノ有效期間中何レカノ締約國ニ於テ海軍力ニ依ル防衛ニ關スル自國安全ノ要件カ四圍ノ狀況ノ變化ニ依リ重大ナル影響ヲ受ケタリト認メタル場合ニ於テハ締約國ハ該國ノ要求ニ基キ本條約ノ規定ヲ再議シ且相互ノ協定ニ依リ之カ修正ヲ爲スノ目的ヲ以テ會議ヲ開催スヘシ

技術上及科學上ノ將來ノ發達ヲ考慮シ合衆國ハ、他ノ締約國ト協議ノ上、右發達ニ適應スル爲本條約中如何ナル變更ヲ必要トスヘキカヲ審議スルノ目的ヲ以テ條約實施ノ時ヨリ八年ヲ經過シタル後成ルヘク速ニ會合スヘキ締約國全部ノ會議ノ開催ヲ準備スヘシ

（說明）

○本條ニ規定スル改訂問題ニ關シテハ十二月二十日ノ十五人委員會ニ於テ佛「サロー」ハ一九三一年ニ再ヒ國際會議ヲ開キテ其後ノ問題ヲ議スヘシト主張シ次テ十二月二十日ノ軍備制限總委員會ニ於テモ問題トナリ七年或ハ八年後ニ本條約審查ノ爲會議ヲ開クヘシトノ說アリ（英）又時期ノ如何ヲ問ハス必要アルニ於テハ此種ノ會議ヲ開キ得サル可カラストスル說アリタリ（伊）（本報告第二章參照）

○斯クテ最初米國側ヨリ提出セル案ニ於テモ右ノ主旨ニ依リ國防上ノ必要ニ依リ時期ノ如何ヲ問ハス會議ヲ開ク場合ト斯カル事情ノ有無ニ拘ラス政治的科學的進步ヲ豫見シテ本條約實施後八年後ニ開催スル場合トヲ規定シタルカ（附錄第三號參照）

一月七日法律家海軍專門家聯合起草分科會ニ於テ初メテ本條ノ審議ニ入り英「リー」ハ修正案ヲ提出シテ political and

scientific development political ヲ technical ト修正シ八年後ノ會議ニ於テハ全然政治問題ニ觸ルルヲ避ケタキ希望ヲ述ヘ勢力比ノ如キ重大事項ヲ議スルノ意ナキコトヲ明示セントス伊「アクトン」ハ何レノ國ト雖モ會議ヲ召集スルノ權利ヲ保有スルト同時ニ又他國ノ召集ニ對シテハ拒絕スルコトヲ得サル旨ノ取極ヲナスヲ要スト論シ佛「ドッボン」ハ將來各國間ノ政治的關係ノ推移ハ測リ知ルヘカラス政治問題ヲモ併セ議スヘシトテ英ノ提議ニ反對シ修正案ヲ提出ス米「ルーズヴェルト」ハ伊委員ノ會議召集國ニ關スル論議ニ對シ米國カ會議ヲ召集スル様規定セルハ國際的慣習ニ從ヒ條約文ノ寄託ヲ受ケタル國トシテ召集ノ手續ヲナスニ過キスト辯シ併セテ曩ニ開會ノ海軍制限分科會ニ於テ七年後再開ノコトニ決定セルニ關ラス本條ニ八年トナセルハ七年後ハ恰モ米國大統領選舉ニ相當シ到底國際會議ヲ開クノ餘裕ナキニ依ル他意アルニアラス」ト説キ尙會議ノ召集ニ就テハ(一)通牒ヲ受ケタルトキ直チニ開催スルカ(二)通牒後多數國ノ同意アリタルトキ開催スルカ(三)締約國全部カ同意シタルトキ開催スルカ此三方法アルモ本條文前段ノ場合ニ於テ第一ノ方法ニ依リ後段ノ場合ニ於テハ第三ノ方法ニ依リタリト述フ英佛修正案左ノ如シ

英 案

ARTICLE XIX.

(First Alternative).

If during the continuance of the present Treaty the requirements of the national security of any Contracting Power in respect of naval defence are, in the opinion of that Power, materially affected by any change of circumstances, the Contracting Powers will, at the request of such Power and for reasons indicated by it, confer together with a view to the reconsideration of the terms of the present Treaty and its amendment by mutual agreement.

In view of possible technical and scientific developments, the United States of America, after consultation with the other Contracting Powers, shall arrange for a conference of all the Contracting Powers which shall convene as soon as possible after the expiration of eight years from the coming into force of the present Treaty to consider what changes in

the present Treaty, if any, relating to subjects other than the fixed ratio (relative strength) of capital ship and aircraft tonnage prescribed (laid down) in Article IV may be necessary to meet new conditions.

佛 案

ARTICLE XIX.

(Second Alternative)

If during the duration of the Treaty, any of the Contracting Powers deems it necessary to request the calling of a new conference, the other Contracting Powers will accede to that wish on the Notification which will be made to them by the Power concerned. In any case a new conference shall be held in eight years dating from the signature of the present Treaty with a view to examine the technical conditions and the scientific developments which may have developed since then.

一月八日法律家起草分科會ニ於テハ米案ヲ議題トセス大體米案ニ近キ英案ト佛案トニ依リ審議ヲ進ム佛案ノ前半ハ大體ニ於テ、英案第一項ト類似シ兩案大ニ異ナルハ佛案ノ後半ト英案第二項ニシテ英案ハ爾後ノ會合ニ於テ主力艦及航空母艦ノ比率問題ヲ議セサルヘキヲ明示シ佛案ハ之ヲ缺ク審議ノ結果定率ナル文字ノ代リニ relative strength ナル文字ヲ用キ laid down ヲ制リタルモノヲ第一案トシ別ニ英案ノ前半ト佛案ノ後半トヲ併セタルモノヲ第二案トシ其ノ取捨ハ之ヲ全權會議ニ一任スルコトニ決定セリ修正案左ノ如シ
草案第六號第二十二條

ARTICLE XII.

If during the term of the present Treaty, the requirements of the national security of any Contracting Power in respect of naval defence are, in the opinion of that Power, materially affected by any change of circumstances, the Con-

tracing Powers will at the request of such Power meet in conference with a view to the reconsideration of the provisions of the Treaty and its amendment by mutual agreement.

(First alternative)

In view of possible technical and scientific developments, the United States of America, after consultation with the other Contracting Powers, shall arrange for a conference of all the Contracting Powers which shall convene as soon as possible after the expiration of eight years from the coming into force of the present treaty to consider what changes in the treaty, if any, relating to subjects other than the relative strength in capital ship and aircraft tonnage prescribed in Article IV may be necessary to meet new conditions.

(Second alternative)

In any case a new conference shall be held in eight years from the date of the coming into force of the present Treaty with a view to examine new technical conditions which may have developed since that date.

第一回全權會議ニ於テ英米ハ第一案ヲ主張シ佛ハ第二案末尾ニ米カ召集スルコト決定ムルモ可ナリト讓步セシモ尙決定ニ至ラス第二回全權會議ニ於テモ依然英ハ第一案ヲ佛ハ第二案ヲ主張シテ相讓ラス「ヒューズ」ハ寧ロ第一案ニ同意ナルモ if any ノ次ヲ relating to subjects, other than those prescribed in Article IV and VII ト改メ比例勢力ノ語ヲ省クノ妥協案ヲ提出セシニ「バルフォア」ハ之ニ反對シ大要左ノ如キ討議ヲ見タリ

「バルフォア」

八年後ノ會合ハ單ニ技術的科學的事項ニ限ルモノニシテ政治的變化ヨリ來ル比率問題ノ如キ重大事項ヲ議スヘキニアラス例ヘハ三萬五千噸ノ制限ノ如キハ科學的變化ニ應シテ若干増減ノ必要生スヘキモ之カ爲メニ勢力比ヲ動カスヘキニアラス

「ヒューズ」

然ラハ修正案ヲ撤回シテ差支ナシ

「サロー」

「比率ヲ條約中ニ入ルル必要ナシ將來ノ變化ハ測リ知ルヘカラス「ヒューズ」修正案ハ佛ノ讓リ得ル最後ノモノナリト論シ「シャンツェ」之ニ同意ス

「バルフォア」

八年後ニ至ラハ單艦ノ排水量制限ヲ變スルカ如キコトハアリ得ヘシ合計噸數ヲ變スルカ如キコトハアリ得ヘシ比率ヲ變スルカ如キハ斷シテ之レナカルヘシ

「サロー」

一艦ノ噸數カ科學ノ發達ニ依リテ變化スヘキハ固ヨリ當然ノコトニシテ特ニ之ヲ規定スル必要ナシ次回ノ會議ニ議スヘキコトハ次回ニ定メテ可ナリ今ヨリ條約中或部分ノ論議ヲ禁スル必要ナシ

「ヒューズ」「サロー」ニ對シ

本條第一項カ政治的變遷ノ必要ニ基ツキ一般事項ノ討議ヲナシ得ルコトヲ規定セル以上夫レニテ充分ナラスヤ次ニ「バルフォア」ニ對シ本條約ハ滿場一致ニアラサレハ改定スルヲ得ス一國反對セハ比率問題ヲ議スル能ハサルハ勿論之カ論議ノ時期ヲ定ムルコトモ不可能ナリ將來會議再開ニ際シ比率問題ヲ議セントスル場合ニハ前以テ外交文書ノ交換ヲ必要トスヘク之ヲ議スルト否トハ斯カル際ニ決定シ得ルヲ以テ今日深ク立入りテ論議スルニ及ハサルヘシ

「バルフォア」

諒解セリ「ヒューズ」修正案ニ同意スルモ末尾 new conditions ヲ such development ト修正シタシ

「サロー」之ニ同意シ「ヒューズ」ハ他ノ米國全權ニ諮ル必要アリトテ保留ヲ求ム

第五回全權會議ニ於テ第二項 what changes ノ次ニ if any ヲ加ヘ全文ヲ可決ス其ノ後一月二十七日法律家打合會ニ於テ United States of America ノ of America ヲ創リタル外論議ヲ重ネス委員總會ヲ通過セリ

○右ニ關シ英國委員「マルキン」ハ「科學技術上進歩ニ應スル必要ヨリスル變更ナレハ毫モ比率ヲ動カス結果ヲ生セス蓋シ科學ノ進歩ハ世界共通ノ現象ナレハ一國ニ厚ク他國ニ薄キカ如キコト有リ得ヘカラス」ト語リ第一案ノ根本精神ハ毫モ修正ニ依リ變ラサル旨ヲ述ヘタリ

○法律家間ノ了解ニ依レハ第二項ニ規定スル會議ハ八年後ニハ必ス開カルヘキモノナリ會議ノ開催地及議題ハ何レモ八年後ニ至リ關係各國間ノ協議ニ依リ決定セラルヘキモノニ屬ス該會議ノ開催ニ當リ米國ノ役目ハ唯輕ク議スルニアリ shall arrange for provoqueront トハ即チ此微妙ナル意味ヲ示シタル語ナリ

第二十二條

(條文)

何レカノ締約國カ海軍力ニ依ル自國安全ノ防衛ニ影響ヲ及ホスト認ムル戰爭ニ從事スルニ至リタル場合ニ於テハ該締約國ハ他ノ締約國ニ通告ヲ爲シタル後第十三條及第十七條ニ規定スルモノヲ除クノ外本條約ニ定ムル自國ノ義務ヲ右敵對行爲ノ期間中停止スルコトヲ得但シ該締約國ハ他ノ締約國ニ對シ該時局カ右停止ヲ必要トスル性質ノモノナルコトヲ通告スルコトヲ要ス

前記ノ場合ニ於テ爾餘ノ締約國ハ本條約中相互ノ間ニ如何ナル一時的修正ヲ爲スヘキカニ關シ協定ヲ爲スノ目的ヲ以テ協議スヘシ該協議ノ結果各締約國ノ憲法上ノ手續ニ準據シテ正當ニ成立スル協定ヲ得ルニ至ラサルトキハ右締約國ノ何レノ一國モ他ノ締約國ニ通告ヲ與ヘタル上第十三條及第十七條ニ規定スルモノヲ除クノ外本條約ニ定ムル自國ノ義務ヲ該敵對行爲ノ期間中停止スルコトヲ得

敵對行爲終了ノ上ハ締約國ハ本條約ノ規定中如何ナル修正ヲ爲スヘキカニ付審議スル爲會議ヲ開催スヘシ

(説明)

○軍備制限條約カ戰時ニ於テモ拘束力アリヤ否ヤハ眞ニ重大ナル問題ナリ本條約ハ締約國間ニ平和關係ノ存在スルコトヲ前提トシテ締結セラレタルハ艦齡ヲ原則トシテ二十個年ト爲シタルニ徴シテモ之ヲ知ルニ難カラス況ンヤ一國ノ存亡ヲ賭スル戰爭ノ場合ニ尙且本條約ニ依リ拘束セラルルト爲スカ如キハ餘リニ實際ヲ無視シタル見解ナラストセス從來ノ戰時法規ハ交戰者ニ對シ人道及正義ノ觀念ニ基ク拘束ヲ加ヘタルモノ一國ノ兵力ヲ制限スルカ如キモノアルヲ聞カス然レトモ戰時ニ至ラハ直ニ本條約カ消滅スト爲スコトモ本條約ノ規定カ結局戰時ニ使用セラルヘキ兵力ノ制限ヲ目的トスルモノナルニ顧ミ且ハ政治條約ハ戰時ト雖交戰國以外ノ締約國間ニハ有效ナリトノ國際法上ノ原則ニ照シ必シモ直ニ首肯シ得可カラサルモノアリ

本條約カ戰時其ノ效力ヲ消滅スルモノナリトセハ其ノ平時ニ於ケル效力ハ少クトモ精神上大ニ減殺セラルヘク又戰時ニ於テモ效力アルモノナリトセハ弱國ハ常ニ條約違反ノ責ヲ負フニ至ル可ク本問題ニ付テハ「マルキン」「ウキルソン」「ニルセン」等ノ英米法律家モ之カ解決上頗ル苦心セル次第ナリ蓋シ條約國間ノ戰爭ト締約國ト締約國以外ノ國トノ戰爭及相手國カ強國ナル場合ト弱國ナル場合ト而シテ戰爭ニ依リ重大ナル影響ヲ被ル中立國タル締約國ト之ヲ被ラサルモノトノ間ニハ本條約ノ適用上大ナル差異アリ之ヲ我國ノ見地ヨリ論スレハ日米戰爭ノ如キ場合ニ米國カ無限ノ富ヲ以テ艦艇増加ヲ計ルヲ防クカ爲本條約カ戰時モ尙效力アリトナスコト利益ナルヘキモ條約ノ規定ノミニ信賴シテ安堵シ得可キニアラス又佛伊ノ戰爭ニ依リ太平洋上ニ於ケル日米間ノ勢力均衡カ動搖スヘシトモ思ハレサルニ戰時ナリトノ理由ヲ以テ本條約カ直ニ其拘束力ヲ失ヒ米國ノ如キカ急ニ海軍擴張ヲ斷行スルカ如キコトアリテハ之レ我國防上由敷大事ナリ其他米國カ墨國ト開戰セルカ爲直ニ其海軍力ヲ増加シ又ハ更ニ進ンテ伊太利カ希臘ト開戰セルカ爲條約國ハ他ノ四國ニ對シテモ拘束力ヲ失ヒ之ニ乘シテ米國カ海軍大擴張ヲ行ハムカ其ノ我ニ執リ大ナル脅威ナルハ云フ迄モナシ

之ヲ要スルニ我國トシテハ我國防上何等ノ影響ヲモ被ラサル歐洲ノ一部ニ起リタル戰爭ノ爲常ニ本條約ノ效力カ失ハルルカ如キコトハ國防上頗ル不得策ナルト共ニ戰時ニ於テモ本條約ニ依リ絕對ニ各國ヲ拘束スルコト事實殆ト不可能ナルコトモ亦之ヲ認メサルヘカラス

本條ノ規定ハ右等ノ諸點ヲ考慮シタル上交戰國トナリタル條約國ハ本規定ノ拘束ヲ受ケツツ尙且戰爭ヲ行ヒ得ル場合例ヘハ英國カ土耳其ト戰爭スル如キ場合ニハ何等變更ナキモ本條約ノ拘束ヲ受クルカ爲困難ヲ感スル締約國ニ對シテハ戰時中本條約上ノ義務履行ヲ一時中止シ得ルノ權利ヲ認メ此場合爾後ノ締約國ハ相會議シテ戰時ニ處スル一時的ノ便法ヲ決定ス可ク若シ右決定ヲ得サルトキハ戰時中本條約上ノ義務履行ヲ中止シ得ル權利ヲ有スルコトシ平和克復後ニ及ヒ國際關係ノ變動ニ照シ更ニ確定的變更ヲ本條約ノ條項ニ加フル爲再ヒ會議ヲ催シ以テ條約ノ效力ヲ持續セシムルコトトナシタリ即チ本條約ハ戰時ニ於テ失效セス唯其適用ヲ中止セラルルコトアリ得ト云フニ過キサリナリ

○本條ハ最初ノ米國案ニハナク法律家起草分科會ニ於テ立案セラレ英國法律顧問ノ起草ニカカル處ナルカ「締約國力戰爭中ニ從事スルニ至リタルトキハ云々」ノ戰爭ナル文字ハ最初ノ案(附錄第五號)ニ於テハ敵對行爲 *hostilities* トナリ居リタル所首席全權會議ニ於テ之ヲ戰爭ト修正センコトノ提議アリ然ルニ戰爭ナル文字ハ國際法上一定ノ狀態ヲ意味スルモノナルヲ以テ例ヘハ大戰ニ支那カ參加セシトキノ如ク戰爭ハ存在シテモ何等敵對行爲 *hostilities* 行ハレサルコトアリ故ニ單ニ戰爭ナル狀態ノ存スルノ故ヲ以テ本條約ヲ停止シ得ルトスルハ不可ナリトノ反對論アリシモ一方米國ト墨國トノ國境等ニ於テ曩ニ敵對行爲ノミ存シテ戰爭ノ存セサルコトアリ加之單ナル事實タル敵對行爲ヲ以テ條約停止ノ理由トスルハ却テ條約ノ地位ヲ危クスルモノナリトノ説勝ヲ占メ結局 *amicable* 採用セラレタリ

○一度首席全權ノ檢閱ヲ經テ脱稿セル條約案ニ於テ(附錄第七號)原案(附錄第五號)ノ *involving naval operations* ヲ改メテ *which in its opinion affects the naval defence of its national security* ナル字句ヲ用ヒタルカ右ハ英國ト波斯又ハ米國ト墨西哥ト云フカ如ク戰爭力陸戰ノミニ限ラルルトキニモ尙且英米兩國ニ對シ本條ニ規定スル權利ヲ行使シ得ル

ノ權利ヲ認ムルコトハ不合理ナリ本條ノ權利ヲ行使スルカ爲ニハ先ツ必ス海戰アリ而モ之カ爲一國ノ安全カ危殆ニ陷ルコトヲ條件ト爲スヘシトノ了解ニテ本件ノ字句カ起草セラレタルモノナリ然レトモ右ノ事由ヲ知ラサルモノニ取リテハ斯カル裏面ニ伏在スル意義ヲ推知スルコト頗ル困難ナル嫌アリ更ニ一國ノ國防ハ海陸空ニ互リ相聯絡シテ考察スヘキモノニシテ海軍ノ攻撃ニハ必スシモ海戰ヲ必要トセス陸上ヨリノ攻撃殊ニ空中ヨリノ攻撃ニ依リ間接ニ其目的ヲ達シ得ル筈ナレハトテ一月二十三、四日ノ法律家起草分科會ニ於テ *affect the security of its national naval defence* トスルコトニ議一決シタルモ遂ニ本會議ニ於テハ原案ノ儘トナレリ

尙佛文 *du cote de la mer* ハ米國ト加奈陀トノ如ク大湖ヲ狹シテ相對スルモノニハ當ラス又香港ノ如キ海軍根據地カ九龍ノ要塞ニ對スル陸上攻撃ニ依リ脅カサル場合ニ當タラス不適當ナリトノ説法律家間ニ多カリシモ改正ニ至ラスシテヤム

○第二項協定ヲ爲スノ目的ヲ以テ協議スヘシ *consult together with a view to agreement* ナル句ハ上院ニ對スル關係上米國側ニ於テ特ニ注意シテ起草シタルモノニシテ之ニ依リ何等明確ノ約束ヲ爲ス義務ヲ負フモノニ非ス關係各國ノ立場ハ協議ニ際シ全然自由ナリトノ了解ニ基クモノナリ斯クテ佛文ニ翻譯スルニ當リテモ右ノ意味ヲ表ス爲種々議論アリ一月二十七日法律家分科會ニテ現在ノ如ク改メラレタルカ其際佛國委員「カムレル」ハ此場合意見ノ交換ト云フモ結局一ノ協定又ハ申合セニ歸着セサル可カラサル次第ニテ右ノ如キ事由明白ナルモノアルニ拘ラス米國側ニ於テ何等カ措置ヲ執ルコトヲ約束スルカ如キコトヲ避ケ度シトテ無暗ニ此點ヲ氣遣フハ理解シ得スト述ヘタルニ米國委員「ウキルソン」ハ上院ニ於ケル論議ハ間々不合理ノコトナルモ如何トモ爲シ難シ諒察ヲ乞フト述ヘタリ

○第二項英文ノ *modifications* ニ對シ佛文 *derogations* ハ條約上ノ義務ヲ輕クスル場合ノミヲ豫見スルモノニシテ完全ナル譯語ト云フ可カラス事實上モ中立締約國力戰爭ノ禍中ニ卷込マルルコトヲ避クル爲條約上ノ義務ヲ重クスルコトモ想像シ得ヘシトテ日本側ヨリ修正ヲ促シタルモ決定ニ至ラスシテヤム

○本條末項敵對行為ノ終了云々ニ就テモ起草ニ際シ第一回ノ全權會議ニ於テ議論アリ最後ノ案(附錄第五號)ニハ *re-establishment of peace* ナル文字ヲ用ヒタルカ、最近米獨間ノ例ニ於ケルカ如ク實際上平和確立ト敵對行為ノ終了トノ間ニ多大ノ日時ヲ費スコトアリ、カカル場合ニ適當ナラストテ反對意見出テ第二回全權會議ニハ

「カーズ」 termination of hostilities
「バルファア」 termination of emergency
「サロー」 cessation of state of war
「ナンツツ」 cessation of hostilities

ノ四案出テタルカ第五回ノ全權會議ニ於テ *cessation of hostilities* 採用セラレ其通確定セリ

第二十三條 第三、第二十三條

(條文)

本條約ハ千九百三十六年十二月三十一日迄效力ヲ有ス締約國中何レノ一國ヨリモ右期日ノ二年前ニ本條約ヲ廢止スルノ意思ヲ通告セサルトキハ本條約ハ締約國ノ一國カ廢止ノ通告ヲ爲シタル日ヨリ二年ヲ經過スル迄引續キ其ノ效力ヲ有スヘク爾後本條約ハ締約國全部ニ對シ廢止セラルヘシ右通告ハ合衆國政府ニ對シ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘク同政府ハ直ニ通告書ノ認證膽本ヲ爾餘ノ締約國ニ送付シ且通告書ヲ受領シタル日ヲ之ニ通知スヘシ該通告ハ右受領ノ日ニ行ハレタルモノト看做シ且其ノ日ヨリ效力ヲ生スルモノトス合衆國政府自ラ廢止ノ通告ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ通告ニ他ノ締約國ノ華盛頓駐劄外交代表者ニ關シテ之ヲ行フヘク該通告ハ右外交代表者ニ通牒ヲ爲シタル日ニ行ハレタルモノト看做シ且其ノ日ヨリ效力ヲ生スルモノトス
何レカノ一國ノ爲シタル廢止通告カ效力ヲ生シタル日ヨリ一年內ニ締約國全部ハ會議ヲ開催スヘシ

(説明)

○本條ハ米國側原案(附錄第三號)ニ於テハ單ニ條約ノ存續期間ヲ十五年トシ十五年以後ニ於テハ二年ノ豫告ヲ以テスル締約國中一國ノ廢棄ノ意思通告ニ依リ失効スルモノト規定セラレタリシカ法律家起草分科會ニ於テ審議ノ結果英修正案ニ基キ附錄第五號ノ如キ案ヲ得タリ之ニ依レハ

(一) 條約ノ存續期間ヲ單ニ實施後十五年トナスニ於テハ其ノ終了ノ時期明瞭ヲ缺クヲ以テ一九三七年一月一日ヲ以テ條約ノ終了期ト定メ夫迄ハ條約ハ絕對ニ效力アリ。其後ニ於テ始メテ脫退ノ權利ヲ認ム。

(二) 脫退ハ一九三五年一月一日以後ニ於テ始メテ之ヲ爲スコトヲ得右ノ通告ハ書面ヲ以テ合衆國政府ニ之ヲ送達スルヲ要シ其到達後二年ヲ經タル後始メテ其通告ヲ發シタル國ニ對シテノミ脫退ノ效果ヲ生ス

(三) 右脫退通告到達ノ日ヨリ一年以内ニ締約國全部ノ會議ヲ開キ其後ノ所置ニ就キ協議ス

(四) 一國ノ脫退通告アリタル時ハ他ノ締約國ハ一年ノ豫告ヲ以テ脫退國ト同時又ハ其後ニ脫退スルコトヲ得右ノ案首席全權會議ニ附議セラルルヤ其ノ第二回ノ會議ニ於テ伊ハ一九三七年一月一日ヲ一九三六年十二月三十一日ニ改ムヘシト主張シ、米ハ伊ノ主張ヲモ加ヘテ修正案ヲ提出シタルカ其修正ノ重ナル點ハ(一) 脫退ノ效果ヲ脫退國ノミニ限ラス締約國全部ニ及ホシ(二) 從ツテ原案末項ノ一國ノ脫退通告後其地ノ締約國カ一年ノ豫告ヲ以テスル脫退ノ規定ハ其必要ナキニ到レルヲ以テ之ヲ削リタルコトナリ。

第五回ノ會議ニ於テ右修正案ニ少シク字句ノ修正ヲ加ヘ本條草案ハ全權會議ノ議決ヲ經タルカ尙ホ米國カ脫退スル場合ノ規定ヲ缺キタルヲ以テ一月二十四日ノ法律家起草分科會ニ於テ委員「マルキン」ノ提案ニ從ヒ第一項末段ヲ追加シ、カクテ更ニ十五人委員會總委員會ノ議ヲ經テ確定條文ヲ得タリ

第二十四條

四、第二十四條

(條文)

本條約ハ締約國ニ依リ各自ノ憲法上ノ手續ニ從ヒ批准セラルヘク且批准書全部ノ寄託ノ日ヨリ實施セラルヘシ右ノ寄

託ハ成ルヘク速ニ華盛頓ニ於テ之ヲ行フヘシ合衆國政府ハ批准書寄託ノ調書ノ認證牒本ヲ他ノ締約國ニ送付スヘシ
本條約ハ佛蘭西語及英吉利語ノ本文ヲ以テ共ニ正文トシ合衆國政府ノ記錄ニ寄託保存セラルヘク其ノ認證牒本ハ同政
府ヨリ他ノ締約國ニ之ヲ送付スヘシ

右證據トシテ前記各全權委員ハ本條約ニ署名ス

千九百二十二年二月六日華盛頓ニ於テ之ヲ作成ス

(説明)

ナシ

註○條約第三章所定ノ諸事項ニ關シ全權隨員ニ於テ(外務海軍陸軍協議)豫メ研究ノ結果到達セル結論ハ次ノ如シ

(大正十年十二月三十一日)

條約ノ
期間ニ
關シ全
權委員
ニ
調書
ヲ
送付
スル
メニ
結
論
セ
ル

甲

一、華府會議ノ決定ニ對シ絕對ニ改訂ヲ加ヘ得サル事項

(一) 艦艇ノ廢棄

(二) 十箇年間(或ハ夫レ以内)ノ海軍休暇

二、華府會議ノ決定ニ對シ海軍休暇後ニ非サレハ改訂ノ效力ヲ生セシメ得サル事項

各國海軍力ノ比率

三、華府會議ノ決定ニ對シ今後隨時改訂ヲ加ヘ得ル事項前記以外ノ細目ニ關スル事項

乙

一、海軍休暇後及其後十年毎ニ會議ヲ開キ本條約ニ付キ再審議ヲ行ヒ若シ必要アラハ之ニ改訂ヲ加ヘ得ルコト

二、加盟國ノ申出ニ依リ今後隨時(即チ海軍休暇中ト雖)臨時會議ヲ開キ得ルコト

(此場合艦艇ノ廢棄及海軍休暇ニ關スル事項ニ對シテハ絕對ニ改訂ヲ加ヘ得サルヘク又各國海軍力ノ比率ニ關ス
ル事項ニ關シテハ海軍休暇後ニ非サレハ改訂ノ效力ヲ生セシメ得サルコト勿論ナリ)

三、會議ノ決定ニハ加盟國全部ノ同意ヲ要スルコト

丙

一、本條約ヨリ脫退シタル國ハ脫退後三箇年間本條約ニ依リ拘束セラルヘキコト

二、加盟國ノ全部カ本條約ノ廢棄ニ同意シタル場合別段ノ決定ナキトキ亦同シ

三、脫退セントスル國ハ定期又ハ臨時ノ會議ニ於テ其理由ヲ説明シタル後ニ非サレハ之ヲ行ヒ得サルコト

第五項 削除セラレタル條文

削除セラ
レタル條
文

米國側、英國側其他ノ提案ニシテ始メ條約草案ニ掲ケラレ審議ノ結果削除セラレタルモノ數項アリ例ヘハ廢棄ノ方法ニ關
シテハ主力艦ヲ他ノ目的ニ轉用セントスル案種々アリシカ右ハ世間ニ誤解ヲ起ス惧アリトテ其大半ハ削除セラレタリ以下
削除セラレタル條文ノ主ナルモノニ付説明スヘシ

第一、主力艦廢棄ノ方法

港灣用及
海軍補助
用

港灣用及海軍補助用 Harbour use and naval auxiliary use ノ爲メ主力艦轉用ノ件及主力艦ヲ商船ニ變更ノ件

原案(附錄第五號)附屬書 BII (c)トシテ軍艦ヲ商船ニ變更スル場合同上(d)トシテ軍艦ヲ專ラ港灣用或ハ海軍補助
一、用ニ變更スル場合何レモ軍艦廢棄ノ方法トシテ舉ケタリシニ一月十一日午後ノ首席全權會議ニ於テ「ヒューズ」ハ(d)
項ノ港灣用又ハ海軍補助用トシテ主力艦ヲ保留セントスル規定ヲ以テ此ノ如キ規定ヲ存置セハ續々此ニ依ラントスル
モノヲ生シ本條約ハ廢棄ヲ表シ號シテ之ヲ實行セサルモノナリトテ世間ニ誤解ヲ起サシメ會議ヲ不成功ナラシムル
モノナリトシテ強ク其削除ヲ主張シ佛「サロー」先ツ之ニ反對シタルモ「ヒューズ」氏ハ之ハ日英米ノ問題ナリトテ
ハネツケ英ノ「バルフォア」ハ英國カ現ニ廢棄セル軍艦ノ多數ヲ擁シテ因却セル事情ヲ述ヘ米國カ單ニ(d)項ノミヲ

削除セント主張スルノ不徹底ナルヲ詰リ宜シク(c)項軍艦ヲ商船ニ變更スル場合ヲモ同時ニ削除スヘシト論シ米國カ航空母艦ニ關シ三萬三千噸級ノ除外例ヲ求メタルハ結局廢棄ヲ經濟的ナラシメンカ爲ナラスヤ要スルニ英國ハ(1)經濟上困難ナル問題ノ起ルコトヲ防キツツ(2)徹底セル廢棄ヲ行ハントスルモノナリト主張セリ

「バルフォア」ノ言ニ對シ「ヒューズ」ハ「英國ハ現ニ巡洋艦ヲ多數擁シテ困却セルニ非スヤ港灣用等ニハ之ヲ用フレハ可ナラスヤ又航空母艦、商船變更ノ場合ハ別問題ナリト論シ然モ商船變更ノ項モ撤回ニ躊躇セス」ト答フ、「バルフォア」ハ尙ホ航空母艦ノ問題ヲ繰リ返シ「實ハ英國海軍ハ、「サラトガ」「レキシントン」二隻ノ改造ヲ喜ハス兩艦ハ装甲ヲ有スルヲ以テ巡洋艦ハ之ニ對抗スル能ハス」ト述フ「ヒューズ」ハ之ニ對シ若シ本件ヲカク迄問題トセラルルナラハ三億弗以上ノ廢棄ヲ斷行セントスル米國ハ航空母艦ノ爲メニ三千萬弗ノ節約ニ戀々タル理由ナシ」ト迄答フル處アリ次テ加藤全權ノ意見ヲ求メタルヲ以テ加藤全權ハ(d)項ニ付テハ練習艦トシテ廢棄サルヘキ軍艦ヲ使用シ度キ希望アルモ之カ爲萬々一條約ノ精神力疑ハルル如キコトアリテハ之レ最モ憂フヘキコトナル故(d)項削除ニ同意スル旨ヲ述ヘ同時ニ(c)項削除ニモ同意ヲ表シ之ト共ニ此問題ニ關シ特殊ノ地位ニアル英國ニ對シ同情ノ意ヲ表シタリ

佛伊モ右二項ノ削除ニ同意シ結局英國モ若年水兵練習用トシテ二隻ヲ保留シテ之ニ同意ス

砲塔練習艦

原案(附錄第五號)ニハ附屬書 BIII (b)トシテ日本側ノ提案ニテ廢棄セラルヘキ主力艦中一隻ヲ砲塔練習艦トシテ保存シ得ル旨ノ規定アリタルカ「ヒューズ」ハ本項カ公衆ノ誤解ヲ招クノ惧アルヲ以テ強ク反對セルニ依リ加藤全權ハ之ヲ諒トシ本項ヲ撤回セリ「ヒューズ」ハ加藤全權ニ對シ感謝ノ意ヲ表シタリ

代換

第二、代換
始メノ草案ニハ代換ニ關スル規則ノ冒頭ニ(A)(B)トシテ五國ノ主力艦及航空母艦ノ總噸數ヲ掲ケタリシヲ右ハ何レ

モ已ニ第四條第七條ニ掲ケタル所ナルヲ以テ一月十五日ノ十五人委員會ニ於テ之ヲ除キタリ

又始メ(D)トシテ規定セル所ハ第二節ノ四(ロ)ノ末段ニ挿入セラレタルヲ以テ之ヲ削除セリ

軍艦及艦隊補助船

第三、軍艦及艦隊ノ補助船ノ定義

原案ニハ vessel of war 及 fleet auxiliary ニ關スル定義ヲ掲ケタルモ(附錄第五號參照)軍艦ノ定義ハ其ノ適用甚タ困難ナルヲ以テ一月十二日ノ首席全權會議ニ於テ之ヲ削除シ艦隊補助船ニ關スル定義モ第十一條ノ規定ニ改正ヲ加ヘタル結果必要ヲ失ヒ之ヲ除キタリ

米國原案第二十一條

第四、米國原案第二十一條

○最初米國側ヨリ提出セル原案(附錄第三號參照)第二十一條ニハ「本條約ノ實行ヲ確保スル爲必要ナル措置ヲ執リ又ハ立法機關ニ提議スルコトヲ約ス」トノ規定アリシヲ以テ一月七日ノ法律家海軍專門家聯合ノ起草分科會ニ於テ日本ハ強ク其ノ不必要ヲ主張シ斯カル規定ハ本條約ノ實行上必要ナル法律案ヲ議會ニ提出シタルノミニテ締約國カ條約實行ノ義務ヲ免レ得ルカ如キ誤解ヲ來スコトアリ斯ノ如キハ由々敷大事ナリトテ其削除ヲ主張シ米國委員ハ日本委員ノ云フカ如キ惧ナシトテ反對シ英佛モ必スシモ削除ノ必要ナシト述ヘタルモ日本委員ハ「ヴェルサイユ」條約ノ運命ニ顧ミ此點ニ關シ米國ノ行動ニ十分信頼シ得ストテ堅ク削除ヲ主張シ遂ニ削除ニ決ス